

ティーチング・ポートフォリオ兼教員プロフィール

	<p>保育科 講師</p> <p>高橋 沙希 (たかはし さき)</p> <p>TAKAHASHI Saki</p>
所属	保 育 科
学位	修士 (教育学) (東京大学)
資格・免許	<p>養護教諭一種免許状</p> <p>中学校教諭一種免許状 (保健)</p> <p>高等学校教諭一種免許状 (保健)</p>
学歴・職歴	<p><学歴></p> <p>2013年 3月 埼玉大学教育学部養護教諭養成課程 卒業</p> <p>2015年 3月 東京大学大学院教育学研究科修士課程 修了</p> <p>2019年 3月 東京大学大学院教育学研究科博士課程 単位取得後退学</p> <p><職歴></p> <p>2015年 4月 埼玉大学教育学部附属中学校 非常勤講師・養護教諭 (2016年4月まで)</p> <p>2017年 4月 国際学院埼玉短期大学 兼任講師 (2019年9月まで)</p> <p>2019年 10月 首都大学東京 兼任講師 (2020年3月まで)</p> <p>2018年 4月 東京大学大学院教育学研究科 特任研究員 (現在に至る)</p> <p>2020年 4月 山梨学院短期大学保育科 専任講師 (現在に至る)</p>
担当科目	<p>保育内容環境 教育方法論 (幼) 子どもの保健</p> <p>インクルーシブ保育Ⅱ 乳児保育Ⅰ 保育実習指導Ⅰ (施設)</p> <p>保育実習指導Ⅲ 小学校教育実習指導</p> <p>小児保健学特論 (専攻科) 保育内容特論 (環境) (専攻科)</p>
専門分野	教育学
現在の研究テーマ	保育学・教育学における「養護」の歴史研究
競争的資金等の研究課題	戦後日本における養護教諭制度の歴史的研究 (科学研究費 課題番号 20K22233 2020~2022年)
所属学会	日本教育学会 日本学校保健学会
メッセージ	あつという間の短大生活です。本学で過ごせてよかったと思ってもらえるような2年間を一緒に作り上げていきたいと思っています。学内外で多くのことを学んで、よりよい人生にしていきたいと思います。

教育	
2021年4月～2022年3月	
教育方針	想像し考える授業をつくる
授業	<p>授業の工夫</p> <p><インクルーシブ保育Ⅰ></p> <p>学生がもつ「障害」に対するさまざまなイメージを受け止めつつ、保育者として必要な「障害」の捉え方を提示し、障害のある子どもや発達に課題のある子どもを含めた保育について、障害種別に基づき授業を行った。授業内では、事例や動画、実際の活動等も通して、自らの保育観や障害観と向き合いながら、言葉で説明する力をつけるために、自作のワークシートを中心に授業を展開した。</p> <p><小児保健学特論></p> <p>本講義が専攻科2年の開講科目であることに鑑み、子どもの健康に関する科目の4年間の集大成として授業を行った。初回の授業で、学生が学習してきた子どもの健康に関する知識を確認し、不足している部分を補いつつ、熟知している箇所についてはさらに深い学びとなるように工夫した。もし自分の担任するクラスに病気の子供がいたら、という設定で子どもの慢性疾患に関するレポート課題を提示した。レポート課題に取り組む際に、病気の説明だけでなく、子どもの精神的なケアも含めてまとめてもらえるように指導した。</p> <p><乳児保育Ⅰ></p> <p>すでに保育所での実習を経験している学生に対する講義科目となるため、実習で困ったことやわからなかったことを学生から積極的に聞き取り、授業を受けながら疑問を解決できるように努めた。また、乳児保育にかけられている社会的な期待に対し、保育者が背負う使命についても改めて考え、保育者の専門性を学べるように工夫した。本授業は、講義であるが、乳児保育Ⅱにつなげられるように、適宜ビデオを用いて実際の保育や子どもとのかかわり方を紹介した。毎回、コメントシートを書いてもらい、学生の授業に対する考えや意見、疑問などを確認し、次回の授業開始時に丁寧にフォローした。</p> <p><保育学特論></p> <p>本科で培ってきた自らの保育観をさらに深めるために、保育に関する文献購読を中心に授業を行った。一人ひとりが考える保育とは何か、保育者とはどのような存在なのかということを常に問い続けながら授業を行い、修了論文執筆に向けて自分の考えを言葉で表現できるように指導した。また、本科の時の経験や疑問を大切にしながら授業を行い、ともに考える授業を展開した。</p>
	授業改善のための取組

教育 (つづき)		
2021年4月～2022年3月 (つづき)		
ゼミ	ゼミ活動 (卒業演習) (修了研究)	<p><卒業演習></p> <p>卒業レポートのテーマは学生が主体的に決定し、希望に沿えるように指導を行っている。本格的な卒業レポートの執筆時期になると、ゼミをさらに少人数のグループに分け、集団指導を行っている。個人のレポートテーマを集団の中でも共有し、お互いに切磋琢磨できる環境を提供している。卒業レポートのみならず、就職の相談に応じながら、学生の進路に対するサポートを行っている。1名が全国保育士養成協議会関東ブロック主催「第35回学生研究発表会」で発表を行った。</p> <p><修了研究></p> <p>卒業レポートのテーマは学生が主体的に決定し、希望に沿えるように指導を行っている。</p>
	卒業レポート・ 修了研究テーマ	<p><卒業レポートテーマ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本における無戸籍の現状と課題 ・過去の体験と現在の性格の関係について—過去の体験が子どもの性格にどのように影響するのか— ・発達性協調運動障害の特性やかかわり方について ・幼児期の離乳食について ・障がいのある子どもに対する音楽療法について ・幼児期の遊びと性格の関係性について ・女性の妊娠出産に伴う夫婦関係の変化について ・乳児期のトイレトレーニングについて ・保育所における障害児保育の事例研究 ・子どもの食物アレルギーについて ・加配保育士の役割について ・離乳食の変化について ・反抗期を経ての母子関係の変化について ・病棟保育士の役割と可能性 <p><修了研究テーマ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・フリースクールの制度化過程に関する一考察—教育機会確保法の成立に着目して— ・児童発達支援センターにおける自由遊び場面での保育者の援助
課外活動	軽スポーツクラブ顧問、手話ボランティアサークルコーチ	
2021年3月以前		
主な教育業績	記載省略	

研究		
2021年4月～2022年3月		
タイトル（単著・共著）	年月日	発行所、発表雑誌、発表学会等
該当なし		
2021年3月以前（主なもの）		
タイトル（単著・共著）	年月日	発行所、発表雑誌、発表学会等
（学術論文） 国民学校令における「養護訓導」の成立過程 —教育審議会の「体位」に関する審議に着目 して— （単著）	2021年3月	東京大学教育学研究科紀要 第60巻
（学術論文） <u>査読付き</u> 保育における「共同」の可能性—アトム共同 保育所を手がかりにして— （単著）	2020年7月	東京大学大学院教育学研究科基礎教 育学研究室研究室紀要 第46号
（著書） 障害児の共生教育運動—養護学校義務化反 対をめぐる教育思想 （共著） ＜担当部分＞ 第4章 「障害児」は存在しない！—が っこの会による就学時健康診断反対闘争 （pp. 75-94）を担当	2019年11月	東京大学出版会
（著書） 日本の海洋教育の原点—（戦後）理科編— （共著） ＜担当部分＞ 第2章 小学校における海洋教育教材の バリエーション（pp. 47-55） 第3章 中学校海洋教育教材のバリエー ション（pp. 56-65） 第4章 小学校編 第1節 学習指導要領改訂の要点 （pp. 68-75） 第5章 中学校編 第1節 学習指導要領改訂の要点 （pp. 92-99）	2019年3月	一藝社

研究 (つづき)		
2021年3月以前 (主なもの) (つづき)		
タイトル (単著・共著)	年月日	発行所、発表雑誌、発表学会等
(学術論文) インクルーシブ教育における実践的思想とその技法—大阪市立大空小学校の教育実践を手がかりとして— (共著)	2016年3月	東京大学大学院教育学研究科紀要 第55号
(学術論文) 査読付き 戦前期における学校看護婦の成立過程—その位置づけに着目して (単著)	2015年7月	東京大学大学院教育学研究科基礎教育学研究室・研究室紀要 第41号
(その他) インクルーシブ保育に関する研究動向 (単著)	2020年3月	東京大学大学院附属バリアフリー教育開発研究センター活動報告 第5号
社会貢献		
産官学連携、高大連携、研修会講師、学外委員会活動、学会活動、講演会、等		
2021年4月～2022年3月		
<ul style="list-style-type: none"> 山梨県児童館連絡協議会主催 放課後児童支援員認定資格研修会 講師 令和3年度山梨県幼稚園・保育所教育研究協議会<A部会> 講師 令和3年度保育士等キャリアアップ研修 乳児保育 講師 令和3年度 保育所等関係職員研修 乳児保育 講師 山梨学院幼稚園教職員研修 講師 		
2021年3月以前 (主なもの)		
<ul style="list-style-type: none"> 山梨県児童館連絡協議会主催 放課後児童支援員認定資格研修会 講師 やまなし幼児教育センター 幼児教育アドバイザー 大学コンソーシアムやまなし 学生交流部会 		
受賞 ※個人、所属団体		
該当なし		